

日本の諸地域 近畿地方 古都奈良・京都の歴史的景観の保全

京都市立中学校主幹教諭 中島一郎

1 はじめに

京都市は、国内外から年間約5千万人の観光客が訪れる、日本を代表する国際観光都市である。平成24年の京都観光総合調査の結果をみると、京都市を訪れる観光客の多くが寺院・神社、名所・旧跡や町の雰囲気に感動しており、これこそが京都の大きな魅力となっていることがわかる。

「近畿地方」の單元では、環境保全を視点として学習活動に取り組むこととなる。「古都奈良・京都と歴史的景観の保全」の授業においては、京都の魅力である寺社や町なみなどの歴史的景観を守ることの必要性について考察することを通じて、生徒の思考力・判断力・表現力等を高めることをめざした。

また、この授業は教育基本法や学校教育法で求められている「伝統と文化を尊重する」子どもの育成に関わるものでもある。京都市においても平成26年度の学校教育の重点で、「伝統と文化を受け継ぎ、次代と自らの未来を切り拓く子ども」をめざす子ども像として掲げている。そこでこの授業では、金閣寺や清水寺など地元の世界文化遺産や、身近に存在する伏見の酒蔵、町家といった歴史的景観を取り上げ、京都市で学ぶ強みを生かすことで、生徒が伝統と文化のすばらしさに気づき、それを次世代に継承しようとする意識を高めることができるようにしたいと考えた。

2 授業構成のポイント

授業を構成するにあたり、子どもたちの思考力・

判断力・表現力等を高めるために、以下の点を重視した。

①課題解決学習に取り組む

授業を通じて生徒の思考力・判断力・表現力等を高めるためには、課題解決学習に取り組むことが重要である。課題解決学習が充実するかどうかは、どのような学習課題を設定するかが鍵となる。そこで、米田豊氏の「図1 社会科における『言語力』の構造」(『中学校 社会科のしおり』2013年度1学期号p.23参照)を参考に筆者が考案した「学習課題の三つのステップ」(図1)にもとづき、課題を設定した。

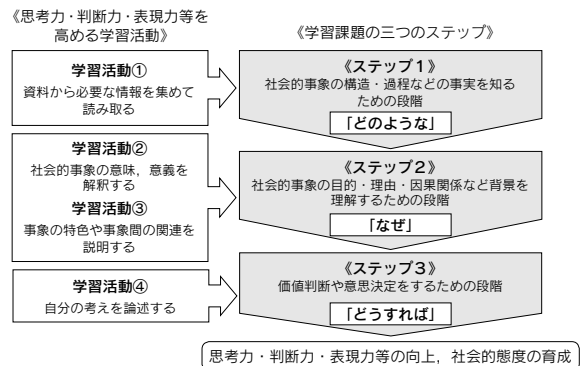


図1 学習課題の三つのステップ

この図では、生徒の思考力・判断力・表現力等が働き高まる学習活動を①～④の四つと考え、それに対応した三つの段階に合わせた学習課題を「どのような」「なぜ」「どうすれば」という問いで示している。今回の授業は歴史的景観の保全の必要性という、社会的事象の目的を考えるステップ2の段階であるため、「なぜ」と問うこととした。

②単元・単位時間を構造化する

図2・3は、今回の単元と単位時間の授業を構造化したものである。授業については、課題解決

の過程を「課題設定」「仮説立案と検証」「交流と再構築」「一般化と発展」の四つととらえ、それぞれのプロセスで取り組む言語活動や重要語句(キーワード)、ワンポイントアドバイス、評価などと示した。

③キーワードを活用する

前述の思考力・判断力・表現力等を高める学習活動は、「読み取り」「解釈」「説明」「論述」という社会科における言語活動をともなう活動である。これらの能力を高めるためには、授業における言語活動を充実させる必要がある。

そこで、調べたことや考えたことを文章に書き表す表現活動を取り入れる。その際には、文章化しやすくするために、家庭学習としてあらかじめ教科書を読み重要語句をキーワードとしてあげて、その語句を活用し自分なりの文章にまとめることができるようにする。

④グループで交流する活動を取り入れる

調べたことや考えたことをグループで交流することで、思考を広げたり深めたりすることができる

る。交流は四人グループで行い、文章化し整理した自分の意見を伝え合う。ここではこの活動を「学び合い学習」とよび、後述の「交流と再構築」に位置づける。

3 授業の実践

(1) 本時の目標と評価

本時の目標と評価は、単位時間構造図に示したとおりである。評価については「関心・意欲・態度」と「思考・判断・表現」に焦点を当て、ノートの記事から見取ることとする。

(2) 本時の展開

①プロセス1：課題設定

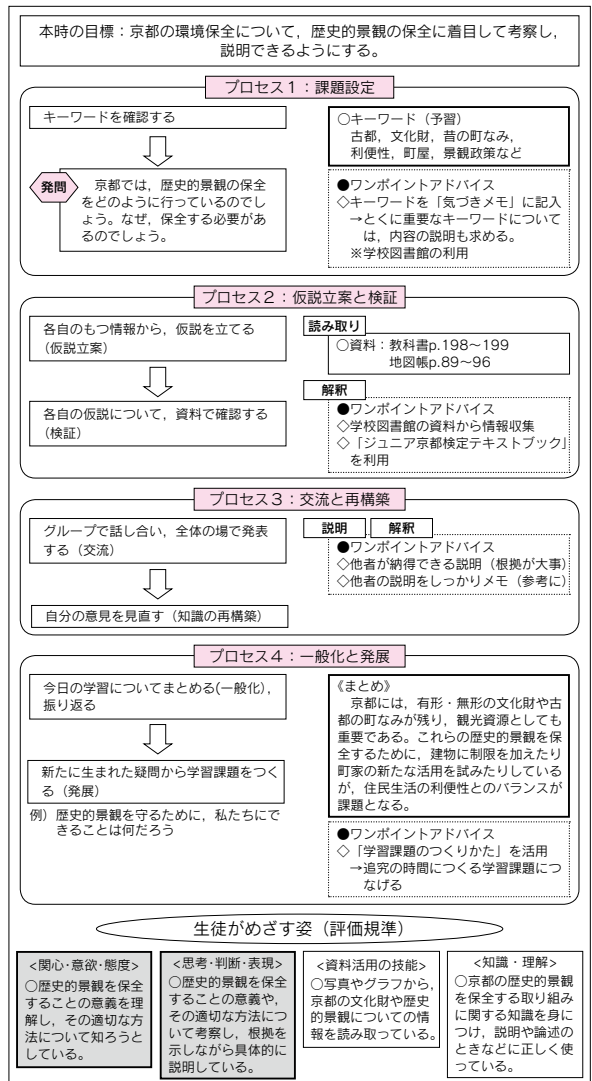


図3 単位時間構造図「古都奈良・京都の歴史的景観の保全」

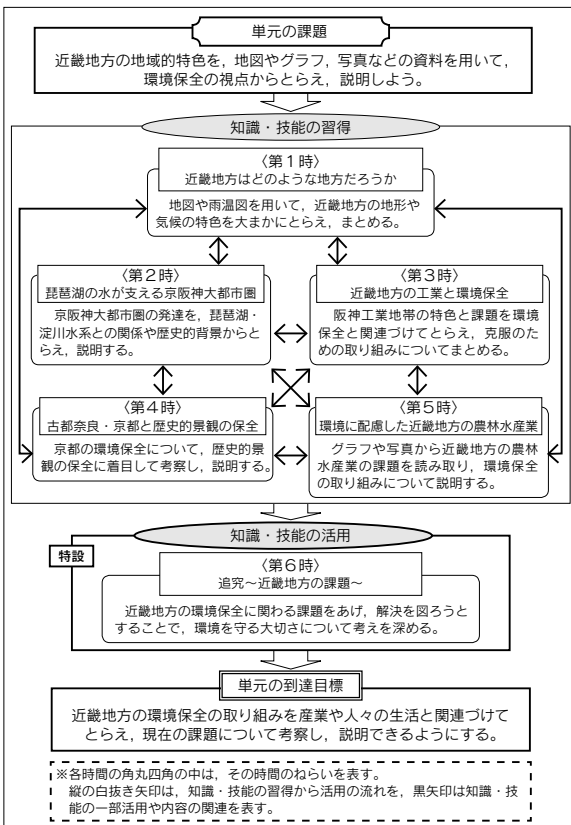


図2 単元構造図「近畿地方」

家庭学習であげたキーワードを全体場で確認した後、学習課題を提示した。キーワードは全体場で確認することで、全員が同じ条件で学習に取り組むことができる。以下は、実際に生徒があげたキーワードである。

〈キーワード〉

文化財、祇園祭、景観、観光資源、古都、寺院、神社

学習課題については、具体的にどのような取り組みが行われているかを知ったうえで、歴史的景観の保全の必要性を考えることが重要であると考え、次のように提示した。

《学習課題》

京都では、歴史的景観の保全をどのように行っているでしょう。なぜ、保全する必要があるのでしょうか。

②プロセス2：仮説立案と検証

一つ目の課題「京都では、歴史的景観の保全をどのように行っているでしょう」について、『社会科 中学生の地理』（以下、教科書）p.198とp.199の写真資料（図4・5）を活用し、京都市内の例を示すことで、保全のための実際の取り組みに気



図4 『社会科 中学生の地理』 p.198 ②2005年と2009年の二年坂のようす



図5 『社会科 中学生の地理』 p.199 ⑤景観に配慮してつくられた京都市内のコンビニエンスストア

づくとともに、身近な問題として関心をもてるようにした。

さらに、『中学校社会科地図』p.94「③京都市中心部」を資料として用いることで、京都市内にある歴史的建造物を、一目で見取ることができる。京都市以外の地域においては、この資料を用いることで、生徒が歴史的景観のイメージをより具体的にもてるのではないかと考える。

生徒は各自で資料を読み取り、電線が地下化されたことや、コンビニエンスストアの配色が他の地域と違うことなど、気づいたことを発表した。何人かの生徒から「このコンビニ、見たことがある」という声も上がり、実感をともなった気づきとなった。生徒の発表の後、教科書p.199の資料⑥


考えよう！まとめよう！

課題解決の方法がみえるアシストカードII

学習課題を解決するためには、課題の答えを予想し、その裏づけ（根拠）となる情報を示さなければなりません。裏づけとなる情報は、地図や写真、グラフや表といった、さまざまな資料から読み取ることができます。次にあげるのは、資料から情報を読み取り、自分の考えをまとめるためのポイントです。

- ◎課題解決のために、適切な資料・情報を集めること
→必要な情報は何か、その情報を手に入れるために適切な資料は何か。
- ◎情報を正確に読み取り、その意味を考えること
→その情報が、本当に自分の考えの裏づけ（根拠）となるものか。
- ◎複数の資料・情報で確認すること
→裏づけとなる情報が、本当に正しいか。
- ◎資料・情報の出典を明らかにすること
→書籍の題名、著者名、出版社名、発行年、ページ、webならタイトルとアドレス。
下は、「この写真の地域の気候の特色は、どのようなものでしょう」という学習課題に取り組む例です。これを参考にして、自分の手で学習課題を解決しましょう。
※出典については、省略してあります。

その1 情報を読み取る：学習課題に関係の深そうなことをあげる。



＜気づいたこと、思いついたこと＞

- ①家の床が高い。
- ②家に壁がない。
- ③薄着で笠をかぶっている。
- ④屋根の傾斜が急である。

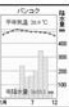
その2 仮説を立てる：集めた情報の意味を考え、答えを予想する。

<p>＜情報＞</p> <p>「家の床が高い」→ 湿気が多い</p> <p>「家に壁がない」→ 風通しがよい</p> <p>「薄着で笠をかぶっている」→ 気温が高い</p> <p>「屋根の傾斜が急である」→ 雨が多い</p>	<p>→</p>	<p>＜予想＞</p> <p>1年中気温が高くて雨が多いのでは？</p>
--	----------	--------------------------------------

その3 検証する：自分の仮説が正しいかどうか、複数の資料で確かめる

写真の場所は、タイのバンコクなので、右のようなバンコクの雨温図を地図帳などから探し、これを用いて気候の特色を確認する。

バンコクの雨温図



→

＜気づいたこと、思いついたこと＞

- ①年平均気温が28.9度と高い。
- ②年間の気温変動が小さい。
- ③年降水量が1653.1mmと多い。
- ④雨がよく降る時期と、あまり降らない時期がある。

その4 まとめる：仮説を「自分の意見」として文章化する。

◎「読み取った情報」を「根拠」として、仮説を文章にまとめる。

◎文型としては「～だから考える。理由は～だからである。」となる。

例)「この地域は1年を通して気温が高く、雨が大量に降る時期と、あまり降らない時期にわかれると考える。理由は、写真では家の床の位置が高く、壁がなく、屋根の傾斜が急で、住民は薄着で笠をかぶっていることから高温多雨であることが読み取れ、雨温図では年平均気温が28.9度で変化がほとんどなく、年降水量が多く雨がよく降る時期とあまり降らない時期があることが読み取れる（根拠）からである。」

図6 アシストカード「考えよう！まとめよう！」

参考URL：京都市総合教育センター 研究課研究紀要・成果物 <http://www.edu.city.kyoto.jp/sogokyoiku/kenkyu/outlines/h25/seika/563/>

京都市が進める景観政策の例」を用いて、行政の他の取り組みについても確認した。なお、筆者の授業では、資料を読み取り自分の考えをまとめる時の手助けとして、図6のようなアシストカードを生徒全員に配布し活用している。

次に、二つ目の課題である「なぜ、保全する必要があるのでしょうか」について考察した。ここでは、観光資源としての歴史的景観の価値と同時に、京都の魅力を形づくる寺社や町なみのすばらしさに気づき、それらを次世代に継承していこうとする意欲につなげたい。

そこで、金閣寺や清水寺、祇園祭のようすなどの写真資料を示したうえで、歴史的景観が損なわれた場合について考えることで、京都に暮らす自分たちの問題としてとらえ、保全する意義に気づくことができるようにした。

③プロセス3：交流と再構築

各自で考えた歴史的景観を保全する意義について、四人グループに分かれて交流する学び合い学習を行った。その際には、他の生徒の説明を聞き、自分の意見と違うところを見つけて書き留めておくことが重要である。なぜなら、書き留めたことを参考にして自分の考えを見直し、思考を広げ深めることができるからである（「知識の再構築」とよぶ）。各グループでは、「古都としての魅力を守ることが必要だから」「他の国には見られない歴史ある木造建築に値打ちがあるから」といった意見が出され、歴史都市京都の魅力を改めて感じている生徒もいた。費用と時間をかけ、生活や仕事にさまざまな制限を加えてまで歴史的景観を保存しているという事実を、一つ目の課題の解決をとおして理解していた生徒は、熱心に意見を交流し、考えを深めることができた。

小グループでの交流の後、各グループでまとめた意見を全体場で出し合った。次に示すのは、全体交流で出た意見をまとめたものである。

[歴史的景観を保全する理由]

- ・伝統的な京の町なみが、独特の雰囲気をつくり、京の魅力の一つとなっているから。
- ・古都としての観光資源を守るため。

・景観が損なわれると観光客が減り、収入も減るから。

ここからは、授業の最初にあげた「観光資源」と「古都」というキーワードに着目して、歴史的の魅力と経済的効果という両面から考察できていることがわかる。ノートの記述にどちらか一方の内容が示されていれば、「思考・判断・表現」の評価基準を満たしていると考えることができる。

④プロセス4：一般化と発展

授業のまとめとして、歴史的景観の保全と生活の利便性とのバランスが重要であることをおさえたい。

今回の授業では、生徒の振り返りの中に、次のような記述が見られた。

今日は、京都や奈良の歴史的景観が、さまざまなくふうをされて守られていることを知った。古くから伝えられ、残されてきた歴史や伝統を、また後世に伝えていくことは、これから大切だと思うので、私自身も守っていく努力が必要だと思う。

「関心・意欲・態度」の評価については、振り返りの記述を中心に見取ることができる。上述のような内容であれば、十分に満足できるものとして評価する。

4 おわりに

授業を振り返って難しいと感じたのは、実感をもとになった理解につなげるくふうである。同じ京都市内であっても、歴史的建造物が身近にない地域では、歴史的景観の保全について自分たちの問題としてはとらえにくい。ビデオ教材を用いたり、校外学習とリンクさせたりするなど、さらなるくふうが必要である。

また発展的な学習活動として、図2に示したように特設の1時間を設け、「どうすれば、今後歴史的景観を守っていくことができるでしょう」といったようなステップ3の学習課題（図1参照）に取り組むことで、社会的な判断力をはぐくむことができる。その際には、学校図書館や地域の図書館を活用することで、より学習内容を深めていくことができるであろう。